

大阪府の電線地中化の現状

短期インターンシップ生の塚本さんと森さんが、直接、大阪の14つの行政に行って電線類地中化について話を伺ってきたので、それを紹介します。

大阪府の14の行政中7つ(下記より紹介)が電線類地中化している!!

- ◎守口市・・・大日駅前住宅地*サンヨーホームズ
- ◎寝屋川市・・・御幸東町*昭和開発
- ◎茨木市・・・彩都あさぎ*UR都市機構*市の区画整備
- ◎吹田市・・・新芦屋・ルナハウス創建*吹田市
- ◎高槻市・・・上土室6丁目(レオタウン高槻)*高橋開発
奈佐原2丁目9番*関西産業
11番*アンフィニーホーム
- ◎摂津市・・・新しく出来る南摂津駅で計画あり
- ◎羽曳野・・・西浦5丁目*(株)たつみ工務店

(*の後に書いてある団体名は開発業者です)

□調査結果のまとめとして

道路移管された行政・・・14行政中3つ、受け入れずあくまで関電、NTTの所有物とする行政が2つ。(※道路移管・・・地中化された配管等の今後の管理などを行う)

移管されていない行政・・・実施については要望があれば考える、ケースバイケースと答えた市が6つ。

移管はないと答えた行政・・・答えたは4つ。理由としてやはりコストがかかるということがネックになっているようです。また管理面、人材不足もあるようです。

行政が主体的になって無電中化を行う意思が少ないということもわかりました。ということは民間が奮起する必要があるかもしれませんね・・・!

メルマガも好評発行中!

発行頻度は毎月1日と15日です。
まだご登録されていない方はぜひ
<http://www.mag2.com/m/0000266000.html>



◎編集後記◎

さて、今回はドイツについての特集をしましたが、いかがでしたか?日本も同じ道をたどっていけばいいですね。では次号では、実際に無電柱に奮闘中の岡山県矢掛町を特集します!

特定非営利活動法人

電線のない街づくり支援ネットワーク

THE NETWORK FOR NON POLE COMMUNITY

「私達」が住む日本の空を、「私達」が美しい空へ変えましょう!

美空～MISORA

第4号

発行日:2008年9月15日

発行者:NPO法人電線のない街づくり支援ネットワーク

ドイツは無電柱王国!

【特集】

どうしてドイツは美しい?

何故ドイツの景観は美しいのでしょうか?それは、ドイツの産業化が、日本よりも100年早く始まっていることが大きな理由とされています。というのも、産業化が早い国では、環境汚染という課題が挙がるのも早いからです。実際ドイツは30年以上、環境汚染を重要な政治的課題として取り組んできています。またドイツには電柱がほとんどありません。そこには一目でわかる美しさがあります。それほど無電柱の効果は大きいのです。

では、3段階あるとされているドイツの環境問題への取り組みについて...

- ① すでに受けているダメージをできるだけ元の状態に戻すということ
- ② 社会的にも個人的にも、経済活動・生活において環境汚染を未然に防止・予防する態度



③ ただ経済的に環境を見るのではなく、全ての社会層がこの環境問題を共有し、文化的な問題・人間のモラルと考へ、「環境は我々の自然的生存基礎である」という政治的な合意を形成すること

ドイツは②まできているようです。街の人たちは競って美しい街並を形成し、その美しさを重視する傾向にあります。そういった「競争力」が原動力となっているわけですね。

比べて、日本は現在①にあてはまります、しかしこれから、人々が意識的に活動することで同じ道をたどつ (信州大学飯田教授の日独セミナー「都市景観計画」より引用)

ドイツの無電柱の要因は、国民の自意識にある！？



今回は当法人の山本理事のお話です。
山本理事は、環境・景観コンサルタント、
アースクリエイティブの主任研究員です。
著書:環境マネジメント ハンドブック
:(共同執筆・日本工業新聞)

そんな景観は許さない！？
景観に対する想い！

ドイツ人の友人が、屋敷を取り囲む木々が全て自分のものであることを自慢に思っていました。ある日、隣の庭の小屋の壁が塗り替えられた。壁の色が派手だったので、落ち着いた木立の景観にそぐわないと感じた友人は隣人に「目障りだ」と苦情を申し出ました。すると隣人はすぐさま壁を目立たない色に塗り替えました。裁判になれば、勝ち目がないと判断したからなのです。



当NPOのHP(ホームページ)でも、最新情報を詳しく載せていきますので、ぜひこちらへもアクセスしてください！



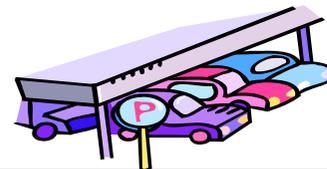
なんと、
利便性よりも景観を！！

ドイツで日本からの衛星放送が始まったとき予想に反して普及しなかったと言われています。その理由は、日本人が住むマンションに衛星放送を受信するアンテナの取り付けを家主が許さなかったから、ということです。屋根や外壁に丸いアンテナを取り付けることは景観が台無しになるというのがドイツ人家主の言い分でした。ドイツの住宅の窓枠は美しい木製が多く、日本で見られるような殺風景なアルミサッシはまず見かけることがないのです。アルミサッシは建物の外観が良くないことと、断熱性が低いため、あまり普及していないという背景があります(使用が禁止されている町もあるとのこと)。

景観は、
社会意識の徹底で変わる！

ドイツ・デュッセルドルフ市内のマンション隣接地が平面駐車場に利用されることになりました。このときマンションの上階住人から、「窓から見える景観が損なわれる」という訴えが起きました。和解の話し合いが行われた結果、駐車場の上部を金網で被い、そこにはつる性の植物を這わせることになりました。

地中海に行けば屋根や壁だけでなく窓枠の色も統一されている場合が多いことに気が付かれた方も多いと思います。政府の指示で窓枠の色はブルーとし、時期を定めて一斉に塗り替えます(フランスの影響が強いアルジェリアでの話)。政府がこのような指示を出すことに対する適否は別として「個々の建物は周囲の景観に合わせなければならない」という社会意識は徹底しているのです。こういった民間の意識があってはじめて、美しい町並みが保たれるわけですね。



次回は・・・、
今現在実際に「無電中化」に奮闘中の、
岡山県矢掛町を特集します！

つまり、
ドイツは・・・？

これらの話をみていると(特に3つ目の話)、環境対応は(弱者保護等も同様であるが)それ単独の施策では効果が出にくいと考えられます。社会的な教育によって共同社会におけるモラル、倫理観を高める必要があるわけです。所構わず張り巡らされた電柱・電線が許されている日本の社会は、公共交通機関の中で優先座席が平然と無視されているのと同様、モラル・倫理観の低い社会であると言われても仕様がありません。日本は経済大国にもかかわらず、意識の問題でこうも世界に遅れをとってしまう現状が存在することを、認知することが必要でしょう。美しい景観を作るには、人々がそれぞれ意識を高めることが大切なのです。

